

## 第1回小中学校体育・文化活動推進懇談会会議録

- 開催日 平成20年6月5日(木)
- 場 所 教育委員室
- 参加者 委員11人(石崎, 星野, 田崎, 本間, 別井, 稲見, 安納, 長岡, 植田, 横山, 和氣)  
事務局11人(教育長, 教育次長, 教育監, 学校教育課長, 学校健康課長, 同補佐, 同係長, 同指導主事3, 生涯学習課係長)

委員からの主な意見・質問等

### 懇談会の設置目的等について

植田委員：体育・文化推進懇談会で体力向上推進計画と部活動推進計画の二つをあげたのはなぜか。

事務局：どちらの計画も宇都宮市学校教育推進計画のアクションプランであり、体力向上については、体力の増強、健康の管理、食育の推進を3つの柱とし、また、部活動についても運動部と文化部について扱うなどどちらも子どもの生活全般に係る意見を幅広くいただく必要があるため。

### 宇都宮市小中学校体力向上推進計画について

別井委員：運動のできる子とできない子の二極化の傾向が指摘される中、スポーツ少年団に入っている子は、運動をやりすぎている傾向にあるのではないか。土日も休みなく練習を行い、試合前に疲労骨折をする子どもも多いように思われる。また、自分の学校に入らずに他校のスポーツ少年団に入団している子もいる。

本間委員：休みの日などに、学校の校庭や体育館を使用したくても、スポーツ少年団などで使用していることが多い。運動をしていない子が運動をしたくてもなかなかできないのが現状なのではないか。学校の空きスペースは夕方しか使えないため下校時の危機管理が心配。総合型地域スポーツクラブなどに入っている子の様子を見ていると加入した時より運動ができるようになっているようだ。新体力テストの結果もよくなったと子どもに聞いている。

稲見委員：ダンスなどを教えていて、加入してくる子の約80%の子が何らかのアレルギー体質であり体力のない子が多いようだ。運動能力の調査に、アレルギーについての項目を加えてみてはどうか。またアレルギー体質の子が増えてきているようだ。最初はつまさき立ちもできない子もいるが、続けていくうちにできるようになり、子どもが変わっていくのがわかる。

#### 宇都宮市部活動推進計画について

別井委員：説明資料P8 土・日・祝日の活動について、実際に学校はこのように計画しているか。

事務局：校長会で毎年説明をし、周知を図っている。

別井委員：家庭の日は休みとなっているが、部活をやっているようだ。

事務局：今後、家庭の日における部活動の実態について調査する。

長岡委員：部活動については、学校の教育の一貫として位置づけされているが、実際は教員が時間外に指導している。教員のボランティアより成り立っているのではないかと思われる。

星野委員：外部指導者がいる学校は、いない学校と比べて大会などで成績がよいなど差がでてくる。また外部指導者がレベルの高い指導を行うのはいいのだが、ついていけない子がでてくるのではないかと心配される。

長岡委員：外部指導者がいても、顧問の負担がなかなか減らないように思う。指導体制を整えるのは難しい。宇都宮市以外ではどのようにしているのか。

事務局：部活動の管理面は顧問で、指導面は外部指導者が当たるということになっているが教員の負担は減らないのが現状。東京都では、外部指導者が正顧問をやっている学校もあるとのこと。勤務時間外の部活動については顧問の教員の自由意志で行っていると聞いた。

横山委員：演劇部の外部指導者をしている。部活動は経済的負担が大きいため入部できない生徒がいると聞いた。保護者は部活動にかかる経費についても気にしていると思う。

事務局：中学校体育連盟補助金、栃木県中学校体育大会宇都宮市選手派遣協議会補助金、関東・全国中学校体育大会宇都宮市選手派遣協議会補助金などの補助金があり大会に出場する選手の交通費や宿泊費を負担している。

田崎委員：説明資料 P16・4 子どもが加入しやすい部活動とはどういうものか。

事務局：加入しやすい部活動とは、部活動の種類や活動内容において、子どもが加入したいと思えるような部活動であること。

田崎委員：P16・4 アンケート結果のなかで生徒は「部活動のねらい」の第一位だったのは「大会・コンクール等での上位入賞」だった。部活動を一生懸命やりたい子もいるので、やりたい子にはどんどんやらせてあげるべきだ。その子の姿を見て他の子どもががんばるのでは。

安納委員：P16・4 アンケート結果のなかで保護者は「規範意識の向上」を第一位としているが、規範意識については、部活動でなく家庭・学校・地域のなかで学ぶべきものではないか。部活動の目的が何なのかを定めた方がいい。

植田委員：スポーツ少年団・総合型地域クラブ・学校でどのように連携を図っていくべきかについては、ただ「連携を図る必要がある」で終らず、具体的にどのようなことができるかを示せるとよいのでは。

星野委員：学校の大きな柱である部活動について更に審議を深めていくべきだ。